

リーダーは実践してこそリーダー SMTからの熱いメッセージ

⑤

2012. 11. 12

JR東海労東二運分会

最近、「新幹線お掃除の天使たち」という、JR東日本関連会社の通称「テッセイ」の皆さんの仕事ぶりとサービス内容を紹介した本が、とても売れているそうです。今回の内容には関係ありませんが、記憶に新しいところでは、東日本大震災直後のディズニーランドのアルバイト従業員教育に関する本もとても売れており、JR東海も「ディズニーランドを見習え」と大号令をかけていました。

ところで、車掌業務で苦勞されている皆さんは6日付の朝日新聞・リレーオピニオンの「リーダー」を読みましたか？ 新幹線メンテナンス東海・SMTの車内清掃の大変さを紹介しています。なかでも、筆頭チーフ担当の女性が、その努力の様子を紹介しているのがとても印象的でした。

その方が、『今の時代、リーダーの立場にいても、上から目線でものを言ったら誰もついてきません。オレについてこい、でなく、部下を理解し、自分も実践しないとダメです。筆頭チーフとして、この考えを行動で示しました。』と苦勞し、気を付けていることの一つとして紹介されています。



乗務員のみなさん 全所員のみなさん

この、行動で示す実践と気遣いの素晴らしさを、私たちの身近にいる管理者が読んだらどのように感じるでしょうか？ SMTはJR東海の関連会社ですから少なくとも管理者は記事に目を通すようにと「命令」され、「服従」しているはずですが。

学習室をコソコソ覗いたり、全く理解していないことを試問したり、間違っただ指摘をするT指導助役さんはさぞかし耳が痛いでしょう。退出点呼の時に「〇〇科用件」と言う前に、運転助役さんも担当した助役さんもSMTの皆さんの実践に学び、心して実践するリーダーとして行動してください。当然ですが、JR東海の経営リーダーもSMTのリーダーからの、熱いメッセージを真摯に受け止めて、実践してください。

蛇足ですが、ある車掌さんから1年ほど前の、概算でのこんな話を聞きました。あの、小川科長がものすごい剣幕で「明日、事情を聴きます」と暴言・怒鳴りつけたものの、「明日」＝翌日の退出点呼では「用件」もかからず、小川科長の姿もなかったそうです。科長が自らの間違いと暴言に気づいて、合わせる顔がなかったのです。

※（この文書が、筆頭チーフのご迷惑にならないかと心配ですか？ 大丈夫ですよ。当然、新聞記事はJR東海の然るべく方のチェックなしでは載りませんから。問題があるとしたらチェックした人の責任です。だから大丈夫です。決して、チーフの責任は問われません。）

「リーダーの 実践もとめて 声をだし」 C D 頑 爺